



女性天皇と女系天皇、

この違いがわかりますか？

二千年以上続いた男系による皇位継承の歴史が、いま断絶させられようとしています。

首相の私的諮問機関の「皇室典範に関する有識者会議」は、女性天皇・女系天皇を導入し、長子優先を柱とする皇室典範の改定を提言し、政府がそれにもとづく法改正に着手しました。

過去の女性天皇はすべて男系

しかし、女性天皇と女系天皇とは全く異なり、実はこの違いが、二千年の皇室伝統を揺るがす大変重要な論点なのです。女性天皇は文字通り女性の天皇のことで、過去に推古天皇や持統天皇など十代八方いらっしゃいますが、すべて父方に天皇の系統を引いた男系女子。いずれも未亡人の皇后か独身の皇族女子で、即位後に結婚されたり、出産された前例はありません。

皇室は世界で最も古い家系

大切なのは、天皇が男性か女性かではなく、男系の血筋を引かれた方かどうかということです。わが皇室は、男系の血筋をたどっていけば、歴代の天皇にたどり着き、最後は神武天皇、神話にまでさかのぼるといって、世界に類例のない古い家系を誇っています。

女系天皇は皇室伝統を否定

ところが、女系天皇とは、母方(女系)の天皇の系統を引く天皇という意味で、歴史上存在しません。例えば、愛子様が天皇に即位され、民間配偶者との間に出産されたお子様が天皇に即位されたとします。この場合は、男女を問わず史上初の女系天皇の誕生であり、二千年来男系によって継承されてきた皇位の伝統が、この時点で断絶することになります。これはもう、取り返しがつきません。

皆さんはどう思われますか。

女系天皇の導入や長子優先主義、女性天皇に配偶者、女性皇族の宮家設立、などなど、何もかもが初めてづくしの皇室典範改定案。こんな大改革を、なぜ急いで行うのでしょうか？もっともっと、国民的な議論が必要なのでは…。